

# 通信インフラさらに強化へ

通信インフラのさらなる強化に向けた動きも加速している。政府は成長戦略の重要施策の一つとして、世界最高レベルの通信インフラの整備を掲げている。すでに固定通信の領域では光ファイバーの普及で世界トップレベルの地位を占める。モバイルでは世界に先駆け、携帯電話契約数に占める第3世代通信システム(3G)の割合を100%まで引き上げた。さらに現在は「第3のアクセス」と呼ばれるワイファイのサービスの整備も進む。固定と移動、ワイファイの融合による「いつでも、どこでも」快適につながる「ネットワークの実現こそ、次世代の通信インフラにふさわしいあり方と言えよう。

ワイファイによる公衆無線LANスポットの設置は急速に進んでいる。これまで通信事業者(キャリア)各社がスマ



ワイヤレスゲートはワイファイによる公衆無線LAN環境の構築・運用支援サービス(アクセスポイント保護BOX)

ートフォンの普及に伴うトラフィック(通信量)急増に対応し、ワイファイのネットワークを活用したオフロード(システム負荷の軽減)率向上を目的に整備する例が目立っていた。現在は東京オリンピック開催を契機とした訪日外国人観光客などのニーズを見込み、観光地の自治体や商店街などを巻き込みながら無料の公衆無線LANスポット

トを増やす取り組みが増えている。KDDIとインフィニティ(京都市中京区)、京都市は「KYOTO-WiFi」を無償提供しており、3月末までに市営バスの停留所や地下鉄



NTTブロードバンドプラットフォームの公衆無線LAN接続用アプリケーション「ジャパ・コネクティブ・フリー・ワイファイ」

きている。ワイヤレスゲートは1月、ワイファイによる公衆無線LAN環境の構築・運用支援サービスに参入した。システム構築事業者を「イネーブラー」として支援するこ

リンピック開催を契機とした訪日外国人観光客などのニーズを見込み、観光地の自治体や商店街などを巻き込みながら無料の公衆無線LANスポット

ル(SBM)と東京臨海

ホールディングス(東京都江東区)は東京ビッグサイト(東京都江東区)などで無料のネット接続サービスを始めた。NTT東日本は東北観光推進機構(高橋宏明会長)東

北電力会長)や国土交通省と共同で、東北7県で公衆無線LANスポットの拡大に乗り出した。ワイファイ環境のニーズをとらえ、新たな事業モデルを描く企業も出て

## 固定・移動、ワイファイ融合

### 「いつでも、どこでも」目指す

銀座連通協会(東京都中央区)の無線LAN環境構築支援プロジェクトを進めている。東京・銀座エリアで「銀座フリーWiFi-Fi(G Free)」の運用を開始。銀座の事例をモデルケースに全国展開する戦略を描く。

一方、NTTブロードバンドプラットフォーム(東京都千代田区)は一度の認証で複数の公衆無線LANスポットを利用できるスマートフォン向け無料アプリを開発し、提供を始めている。アプリを起動後、画面のボタンをタップするだけで接続可能で、これまで多くの公衆無線LANサービスに見られていた接続操作の煩雑さを解消し、利用者のニーズに応えた。対応エリアは全国約1万6000アクセスポイント(AP)。今後も提携事業者を増やし、利便性を高めていく考えだ。